

テーマ:

全身で感じよう、食物の力強さ！ みんなで育てよう、私たちの元気の源！

北海道
帯広盲学校
三上 友佳子 先生

この活動の特徴

「凛々子」活用のポイント①

“みんなで育てる”ことで
畑の話題が増え
栽培活動が活性化

「凛々子」活用のポイント②

クラス毎の当番制により
栽培・観察への責任が生まれ
小さな変化を捉える力が育つ

活動のわらい



- 食べることは身近でも、視覚に障がいがあり、食材そのものについてよくわかっていない子ども達に、よく見て、触って、時間をかけて食べ物が育つ姿を体感させる。
- 全校で取り組むことにより、教員と児童生徒が1対1になりがちな日頃の教育活動から、生徒児童同士のつながりを感じることでできる教育活動を展開する。

活動の概要と流れ

対象学年 : 全校生 (幼3名・小学11名・中学4名 計18名)
教科 : 生活科、理科、学級活動、体育、家庭科
実践期間 : 5～12月

時期	学習活動
5月22日	<ul style="list-style-type: none"> ● 全校で畑に苗を植える。教員が作成した栽培キャラクター「りりこちゃん」の絵を描いた看板を設置し、みんなで一緒に育てていくことを確認する。
5月第4週 ↓ 9月第4週	<ul style="list-style-type: none"> ● 1クラス1週間交代の当番制で、観察と水やり、草取り等の世話をする。観察日誌を児童生徒玄関の正面の壁に掲示し、「凛々子」のようすを全校で共有する。
8月22日	<ul style="list-style-type: none"> ● 初収穫。収穫したトマトはクラス毎に味見をし、残ったものは保健室で保管し、帰省日に各家庭へ配布。さらに残ったものは校内で冷凍保存する。
8月下旬 ↓ 12月上旬	<ul style="list-style-type: none"> ● 収穫したトマトを使って、中学生が調理実習をしたり、給食に取り入れたりして、様々なトマトメニューを全校で味わう。
10月3日	<ul style="list-style-type: none"> ● 全員で畑の後片付けをする。
10月4日	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動のまとめとして、全校で観察記録の発表会をする。



ここがポイント！取組の工夫と実践の成果



“みんなで育てる”ことで栽培活動が活性化！当番制の導入で活動意欲が高まる

毎年、栽培活動はクラス毎に行っていたが、手が回らずに植えたままになってしまうことが多かった。そこで、今年度は全校で一緒に「凜々子」を育てることにし、苗の定植は全員で、観察と世話は、クラス毎に1週間ずつ交代で行うことにした。

観察日誌は、ガイドブックに載っていたワークシートを活用し、記入したシートは全員が確認できるよう、玄関正面の壁に掲示した。目が見えない子どもも読めるよう、点訳も掲示した。自分が書いたシートが廊下に掲示されるのを楽しみに、当番ではない時でも観察をしてワークシートを持ってくるクラスもあった。

子どもたちは当番になると、時間をかけて苗をよく見て、触って、茎や葉の様子を感じ、また、においの強弱でも「凜々子」の生長の変化を感じ取っていた。トマトが色づき始めると、見つけた子どもが見えない友達にその姿を伝える等、当番を中心に「凜々子」の生長を互いに教え



受賞理由



小規模校ならではの“みんなで一緒に取り組む”活動に当番制を採用したことで、栽培の手間は減り、活動意欲と責任感が高まる、という抜群の効果を生んだ実践です！全員の参加意識を維持できるよう、観察シートを見やすい場所に掲示したり、点訳したり、機械を使って完熟トマトを見極めたりと、先生方の丁寧なひと手間も光る取り組みでした。

合い、早く実が赤くならないかと、みんなで収穫を心待ちにするようになった。



完熟トマトの“濃い赤”をチェック！色の変化を捉えながらみんなで収穫の喜びを共有する

夏休み明けにはたくさんのトマトが色づき、ガイドブックの裏表紙と比べながら、真っ赤に熟したトマトを収穫した。目が見えない子どもは“カラートーク”という機械を使って「濃い赤」と言われた実だけを収穫した。



収穫したトマトは、その数だけシールを貼って記録し、収穫量がみんなにわかるよう掲示板に表示していった。



個々の観察の気づきを共有し、「凜々子」の生長を線でつなぐ

畑の片づけをした翌日、全校で栽培活動のまとめとして、観察記録の発表会を行った。各自が当番の時に発見したことを発表し合い、全員で責任を持って取り組んだ結果が収穫につながったことを称え合った。



先生から一言！実践を通して

畑の活動がこんなにも校内で話題になったのは、初めてでした。食べ物の命をもっと大切にしよう、と、前年度末から食育活動計画を立てて、全クラスの先生方と一緒に当番を決めました。当番制にしたことで、普段は関わりのない子どもにも話しかける機会が増えたり、観察シートを通して、その子どもの見え方や感じ方、表現の仕方への理解が深まり、日々の指導にも活かすことができました。

ガイドブックに載っていた観察シートを利用しましたが、子どもたちの豊かな感性が絵や文章から感じられ、文章表現や観察（触察）の視点など、今後の指導の参考にもなりました。

植えた時は頼りないくらい小さかった「凜々子」の苗が、雨や日照りを乗り越えて、一本も枯れることなく多くの実をつけました。厳しい自然にも負けない「凜々子」のたくましさを、子どもたち一人一人が感じてくれたと思います。